

### Ⅲ 世帯員の健康状況

#### 1 自覚症状の状況

病気やけが等で自覚症状のある者〔有訴者〕（熊本県を除く。）は人口千人当たり 305.9（この割合を「有訴者率」という。）となっている。

有訴者率（人口千対）を性別にみると、男 271.9、女 337.3 で女が高くなっている。

年齢階級別にみると、「10～19 歳」の 166.5 が最も低く、年齢階級が高くなるにしたがって上昇し、「80 歳以上」では 520.2 となっている。（表 11）

症状別にみると、男では「腰痛」での有訴者率が最も高く、次いで「肩こり」、「せきやたんが出る」、女では「肩こり」が最も高く、次いで「腰痛」、「手足の関節が痛む」となっている（図 19）。

なお、足腰に痛み（「腰痛」か「手足の関節が痛む」のいずれか若しくは両方の有訴者。以下「足腰に痛み」という。）のある高齢者（65 歳以上）の割合は、男では 210.1、女では 266.6 となっている（41 頁 統計表第 10 表参照）。

（参考）「健康日本 21（第 2 次）」の目標 足腰に痛みのある高齢者の割合の減少（千人当たり）  
目標値：男性 200 人 女性 260 人 【平成 34 年度】

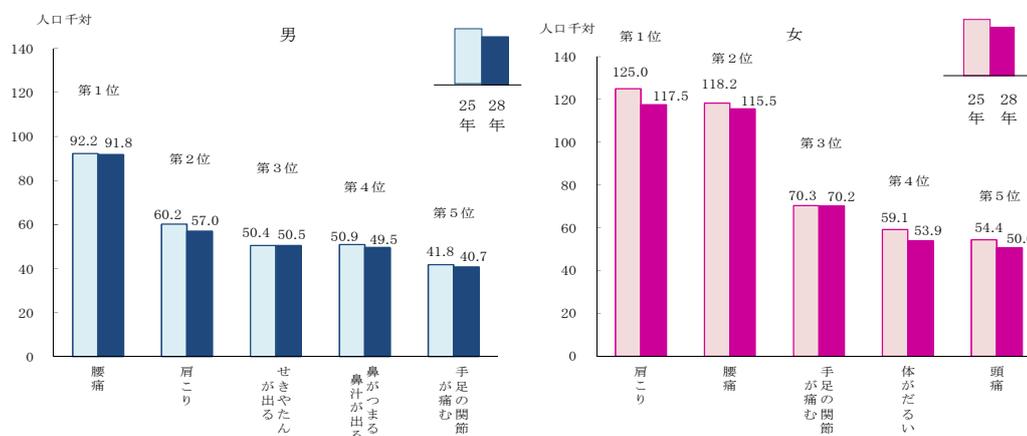
表 11 性・年齢階級別にみた有訴者率（人口千対）

（単位：人口千対）

年齢階級	平成28年			平成25年		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	305.9	271.9	337.3	312.4	276.8	345.3
9歳以下	185.7	198.1	172.8	196.5	204.7	187.9
10～19	166.5	162.4	170.7	176.4	175.2	177.8
20～29	209.2	167.7	250.3	213.2	168.7	257.6
30～39	250.6	209.0	291.2	258.7	214.4	301.4
40～49	270.0	224.9	313.6	281.1	234.3	325.7
50～59	308.8	263.0	352.8	319.5	271.0	365.8
60～69	352.8	330.6	373.5	363.0	338.5	385.5
70～79	456.5	432.2	477.2	474.8	448.0	497.4
80歳以上	520.2	499.1	533.2	537.5	528.1	542.9
（再掲）						
65歳以上	446.0	417.5	468.9	466.1	439.9	486.6
75歳以上	505.2	480.5	522.5	525.6	506.1	538.8

- 注：1）有訴者には入院者は含まないが、分母となる世帯員には入院者を含む。  
2）「総数」には、年齢不詳を含む。  
3）平成28年の数値は、熊本県を除いたものである。なお、平成25年の熊本県及び同県分を除いた46都道府県の数値は、55頁の参考表16に掲載している。

図 19 性別にみた有訴者率の上位 5 症状（複数回答）



- 注：1）有訴者には入院者は含まないが、分母となる世帯員には入院者を含む。  
2）平成28年の数値は、熊本県を除いたものである。

## 2 通院の状況

傷病で通院している者〔通院者〕（熊本県を除く。）は人口千人当たり 390.2（この割合を「通院者率」という。）となっている。

通院者率（人口千対）を性別にみると、男 372.5、女 406.6 で女が高くなっている。

年齢階級別にみると、「10～19 歳」の 141.1 が最も低く、年齢階級が高くなるにしたがって上昇し、「80 歳以上」で 730.3 となっている。（表 12）

傷病別にみると、男では「高血圧症」での通院者率が最も高く、次いで「糖尿病」、「歯の病気」、女では「高血圧症」が最も高く、次いで「眼の病気」、「歯の病気」となっている（図 20）。

表 12 性・年齢階級別にみた通院者率（人口千対）

（単位：人口千対）

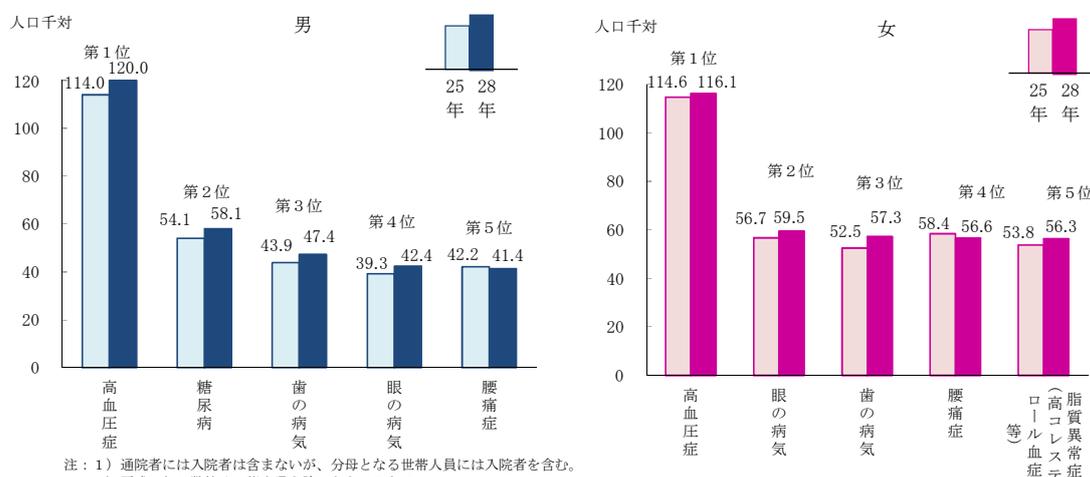
年齢階級	平成28年			平成25年		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	390.2	372.5	406.6	378.3	358.8	396.3
9歳以下	160.0	172.5	147.0	163.9	178.6	148.4
10～19	141.1	144.3	137.6	133.0	138.9	126.9
20～29	156.7	129.8	183.4	150.4	123.4	177.2
30～39	206.0	180.1	231.3	204.1	178.4	228.9
40～49	275.5	264.3	286.3	272.7	258.9	285.8
50～59	418.8	411.5	425.9	418.8	408.5	428.5
60～69	582.2	583.3	581.1	576.6	574.1	578.9
70～79	708.0	704.2	711.2	707.5	702.8	711.5
80歳以上 （再掲）	730.3	729.1	731.0	734.1	733.3	734.5
65歳以上	686.7	681.7	690.6	690.6	685.2	694.9
75歳以上	727.8	725.1	729.6	735.0	732.9	736.4

注：1）通院者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員には入院者を含む。

2）「総数」には、年齢不詳を含む。

3）平成28年の数値は、熊本県を除いたものである。なお、平成25年の熊本県及び同県分を除いた46都道府県の数値は、55頁の参考表17に掲載している。

図 20 性別にみた通院者率の上位5傷病（複数回答）



注：1）通院者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員には入院者を含む。  
2）平成28年の数値は、熊本県を除いたものである。

### 3 健康意識

6歳以上の者（入院者、熊本県を除く。）について、健康意識の構成割合をみると、「健康と  
思っている」（「よい」「まあよい」「ふつう」を合わせた者。以下同じ。）は85.5%となっ  
ており、「あまりよくない」11.2%、「よくない」1.8%となっている。

「健康と思っている」の割合を性別にみると、男 86.7%、女 84.4%となっている。（表 13、  
図 21）

表 13 性別にみた健康意識の構成割合（6歳以上）

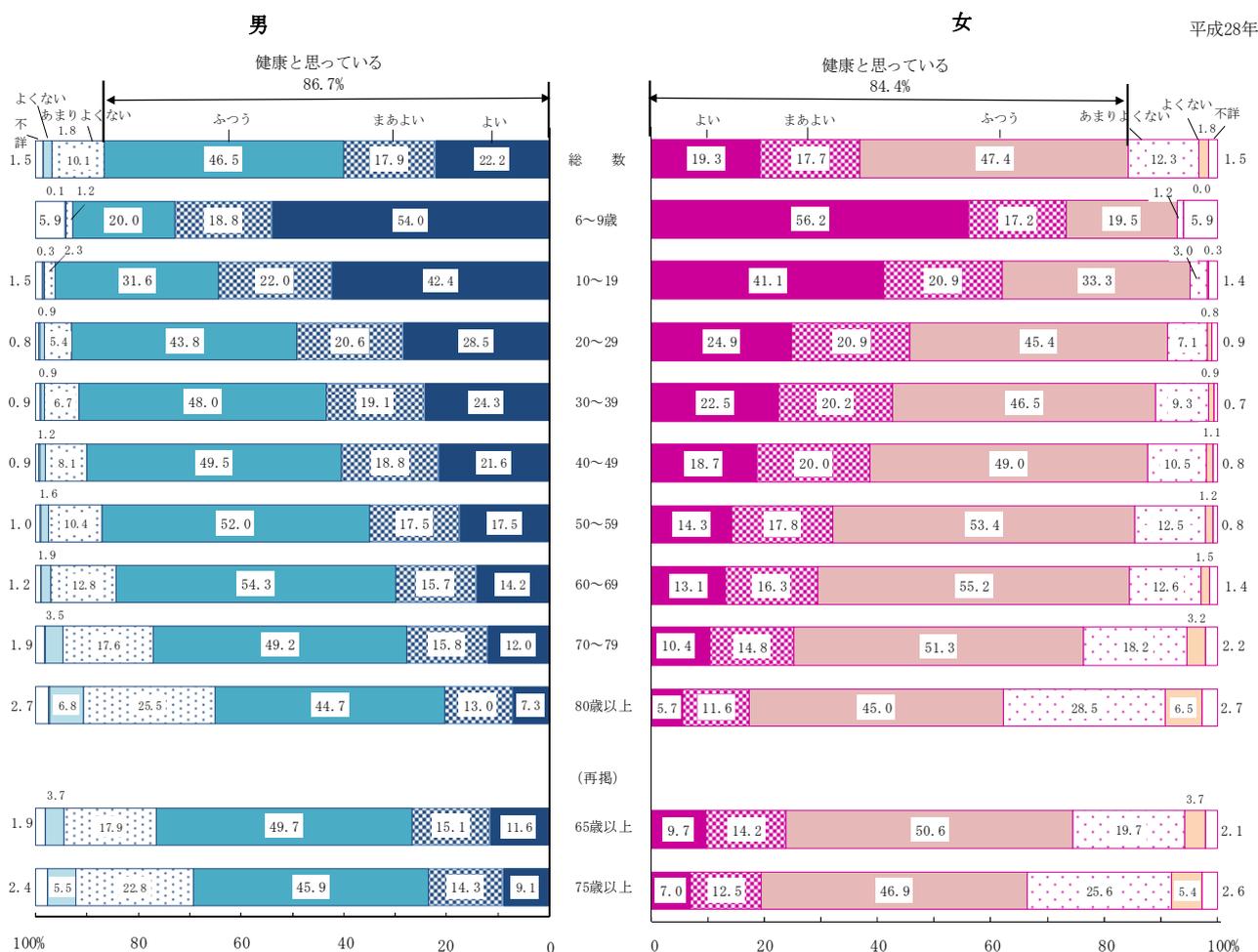
(単位：%) 平成28年

性	総数	健康と思っている			あまりよくない	よくない	不詳	
		よい	まあよい	ふつう				
総数	100.0	85.5	20.7	17.8	47.0	11.2	1.8	1.5
男	100.0	86.7	22.2	17.9	46.5	10.1	1.8	1.5
女	100.0	84.4	19.3	17.7	47.4	12.3	1.8	1.5

注：1) 入院者は含まない。

2) 熊本県を除いたものである。

図 21 性・年齢階級別にみた健康意識の構成割合（6歳以上）



注：1) 入院者は含まない。

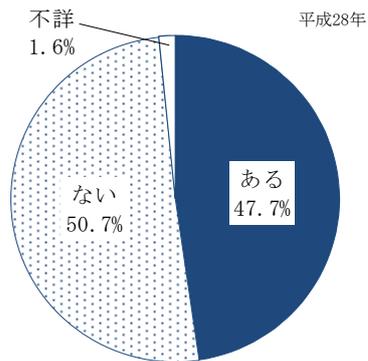
2) 熊本県を除いたものである。

## 4 悩みやストレスの状況

12歳以上の者（入院者、熊本県を除く。）について、日常生活での悩みやストレスの有無をみると「ある」が47.7%、「ない」が50.7%となっている（図22）。

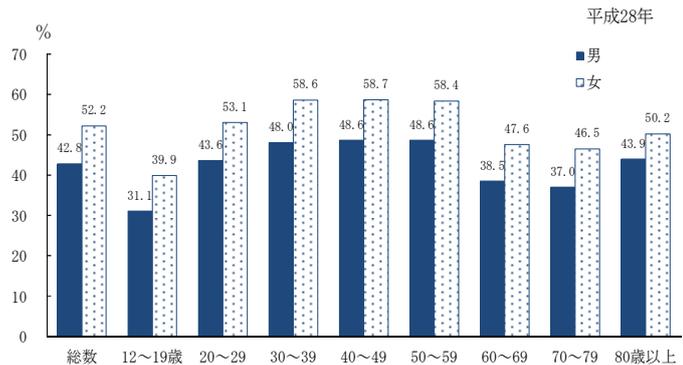
悩みやストレスがある者の割合を性別にみると、男42.8%、女52.2%で女が高くなっており、年齢階級別にみると、男女ともに30代から50代が高く、男では約5割、女では約6割となっている（図23）。

図22 悩みやストレスの有無別構成割合（12歳以上）



注：1）入院者は含まない。  
2）熊本県を除いたものである。

図23 性・年齢階級別にみた悩みやストレスがある者の割合（12歳以上）



注：1）入院者は含まない。  
2）熊本県を除いたものである。

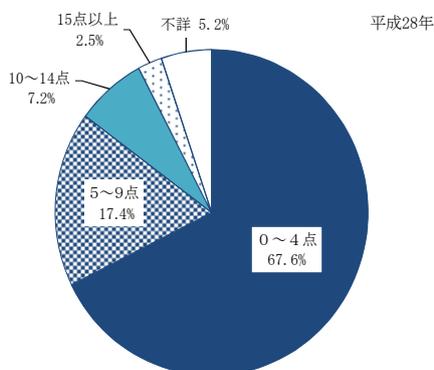
## 5 こころの状態

12歳以上の者（入院者、熊本県を除く。）について、過去1か月間のこころの状態を点数階級別（6つの質問について、5段階（0～4点）で点数化して合計したもの）にみると、「0～4点」が67.6%と最も多くなっており、年齢階級別に点数階級をみてもすべての年齢階級で「0～4点」が最も多くなっている（図24、図25）。

なお、気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者（20歳以上で、10点以上）の割合は、10.5%となっている（図25）。

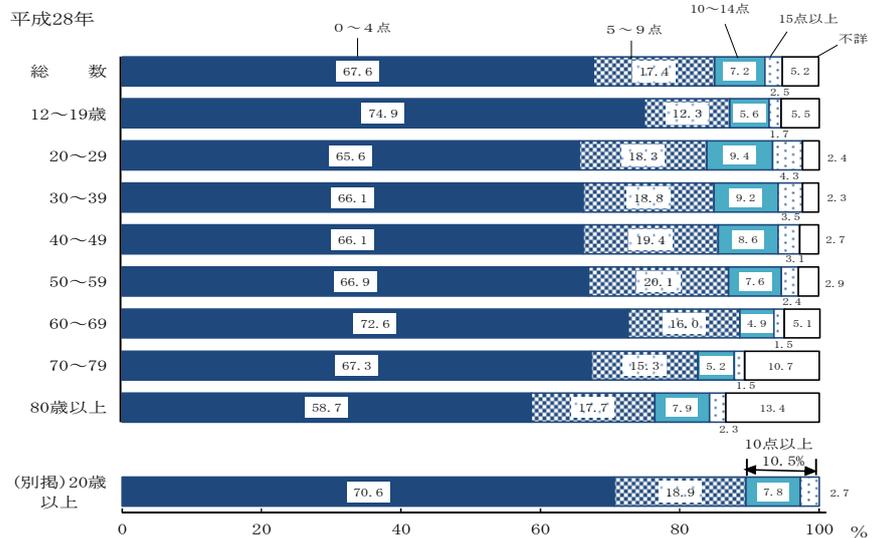
（参考）「健康日本 21（第2次）」の目標 気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者の割合の減少 目標値：9.4% 【平成34年度】

図24 こころの状態(点数階級)別構成割合（12歳以上）



注：1）入院者は含まない。  
2）熊本県を除いたものである。

図25 年齢階級別にみたこころの状態(点数階級)の構成割合（12歳以上）



注：1）入院者は含まない。  
2）熊本県を除いたものである。  
3）「(別掲)20歳以上」は点数不詳を除いたものである。

## 6 睡眠と休養充足度の状況

12歳以上の者（入院者、熊本県を除く。）について、過去1か月間の1日の平均睡眠時間をみると、「6～7時間未満」が32.3%と最も多くなっている（表14）。

睡眠による休養充足度をみると、「まあまあとれている」が最も多く57.7%となっている（図26）。

なお、「睡眠による休養を十分とれていない」（20歳以上の者で「あまりとれていない」と「まったくとれていない」を合わせた者。以下同じ。）の割合は、23.2%となっている（図27）。

（参考） 「健康日本21（第2次）」の目標

睡眠による休養を十分とれていない者の割合の減少 目標値：15%【平成34年度】

表14 年齢階級別にみた平均睡眠時間の構成割合（12歳以上）

(単位：%)		平成28年							不詳
年齢階級	総数	5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8～9時間未満	9時間以上	不詳	
総数	100.0	8.2	28.7	32.3	21.4	6.2	1.9	1.3	
12～19歳	100.0	3.5	20.4	34.0	28.1	8.7	1.3	4.0	
20～29	100.0	6.8	30.0	34.9	21.1	5.0	1.4	0.8	
30～39	100.0	8.5	30.4	34.8	20.2	4.3	1.0	0.8	
40～49	100.0	11.2	35.7	32.8	15.8	3.1	0.6	0.8	
50～59	100.0	10.7	36.6	32.6	15.9	2.9	0.5	0.7	
60～69	100.0	7.2	27.8	34.0	23.4	5.6	1.0	0.9	
70～79	100.0	8.0	23.8	29.9	25.0	9.1	2.6	1.6	
80歳以上	100.0	6.3	15.8	22.3	27.1	16.5	10.0	2.0	
(再掲) 65歳以上	100.0	7.2	22.4	29.0	25.5	10.2	4.1	1.5	
(再掲) 75歳以上	100.0	7.0	18.9	24.9	26.2	13.9	7.3	1.9	

注：1) 入院者は含まない。  
2) 熊本県を除いたものである。

図26 睡眠による休養充足度別構成割合（12歳以上）

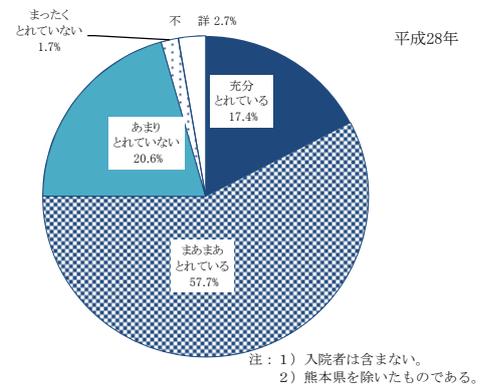
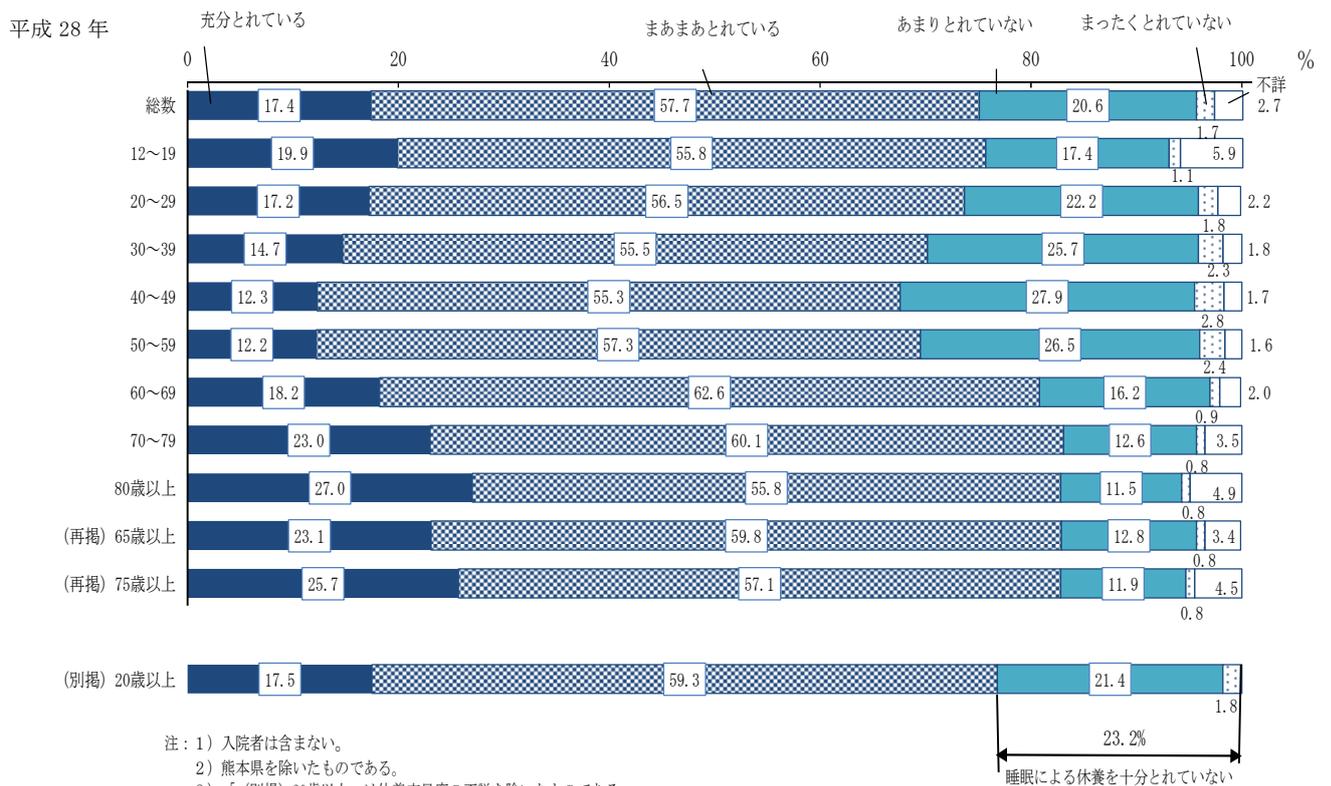


図27 年齢階級別にみた休養充足度の割合（12歳以上）



## 7 飲酒の状況

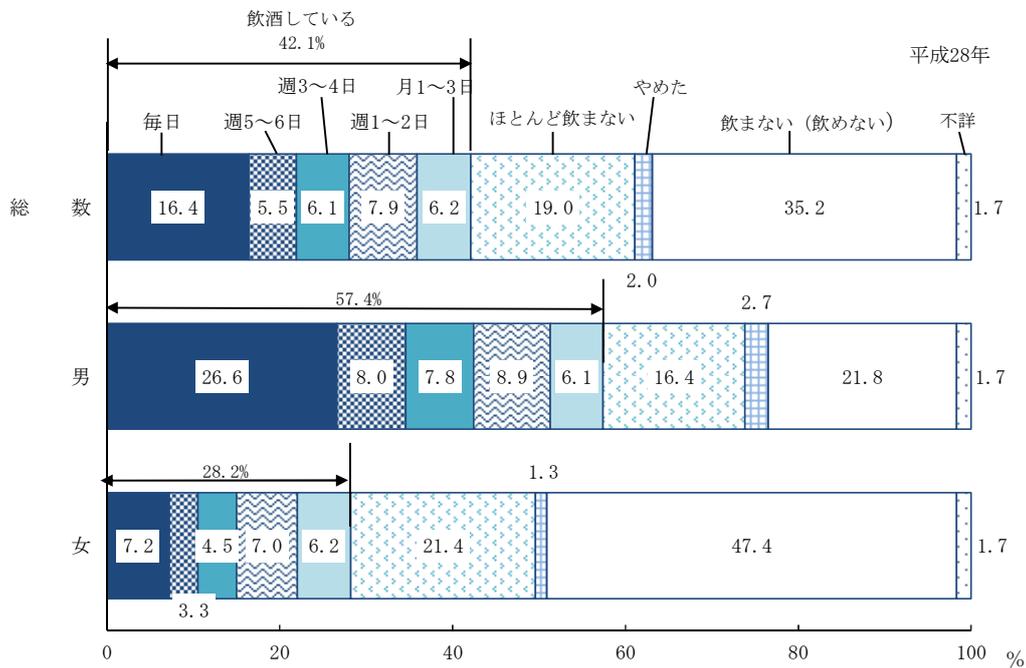
### (1) 飲酒の有無と頻度

20歳以上の者（入院者、熊本県を除く。）について、週の飲酒の状況を性別にみると、男は「毎日」が26.6%、女は「飲まない（飲めない）」が47.4%と最も多くなっている（図28）。

性・年齢階級別にみると、男は30代から70代まで「飲酒している」（「毎日」から「月1～3日」を合わせた者。）の割合が多く、「20～29歳」、「80歳以上」は「飲酒していない」（「ほとんど飲まない」から「飲まない（飲めない）」を合わせた者。）の割合が多くなっている。女は全ての年齢階級で「飲酒していない」の割合が多くなっている。

「飲酒している」を飲酒の頻度別にみると、男は30代以上、女は40代以上の年齢階級で「毎日」が最も多くなっている。（表15）

図28 性別にみた飲酒の頻度別構成割合（20歳以上）



注：1) 入院者は含まない。  
2) 熊本県を除いたものである。

表15 性・年齢階級別にみた飲酒の状況別構成割合（20歳以上）

性 年齢階級	総数	飲酒している					飲酒していない				不詳	
		毎日	週5～6日	週3～4日	週1～2日	月1～3日	ほとんど飲まない	やめた	飲まない（飲めない）			
男	100.0	57.4	26.6	8.0	7.8	8.9	6.1	40.9	16.4	2.7	21.8	1.7
20～29歳	100.0	45.1	4.6	3.2	6.7	15.5	15.1	53.3	28.0	0.4	24.9	1.6
30～39	100.0	54.1	17.2	7.0	9.0	12.2	8.7	44.5	20.4	0.7	23.4	1.4
40～49	100.0	60.5	26.7	8.5	8.8	10.3	6.2	38.2	16.5	1.2	20.5	1.3
50～59	100.0	65.7	33.2	10.4	8.7	8.7	4.7	32.9	13.5	2.0	17.4	1.3
60～69	100.0	63.9	36.7	9.7	7.6	6.1	3.8	34.2	12.4	3.6	18.2	1.7
70～79	100.0	55.1	31.5	7.9	6.9	5.3	3.5	42.4	13.7	5.2	23.5	2.4
80歳以上	100.0	39.8	23.0	4.7	5.1	4.1	2.9	57.2	14.7	8.3	34.2	2.9
女	100.0	28.2	7.2	3.3	4.5	7.0	6.2	70.1	21.4	1.3	47.4	1.7
20～29歳	100.0	33.5	1.5	1.4	3.6	11.2	15.8	65.5	29.1	1.5	34.9	1.2
30～39	100.0	31.9	6.3	3.4	5.0	9.2	8.0	67.1	22.5	2.3	42.3	1.0
40～49	100.0	38.4	11.2	4.7	5.9	9.5	7.1	60.5	22.2	1.4	36.9	1.1
50～59	100.0	36.8	11.6	5.0	5.9	7.9	6.4	62.0	22.3	1.0	38.7	1.2
60～69	100.0	25.9	7.9	3.6	4.6	5.6	4.2	72.4	21.1	1.1	50.2	1.8
70～79	100.0	17.0	4.9	2.1	3.2	3.7	3.1	80.3	19.2	1.2	59.9	2.7
80歳以上	100.0	9.0	2.8	0.9	1.6	2.2	1.5	87.9	14.6	1.1	72.2	3.3

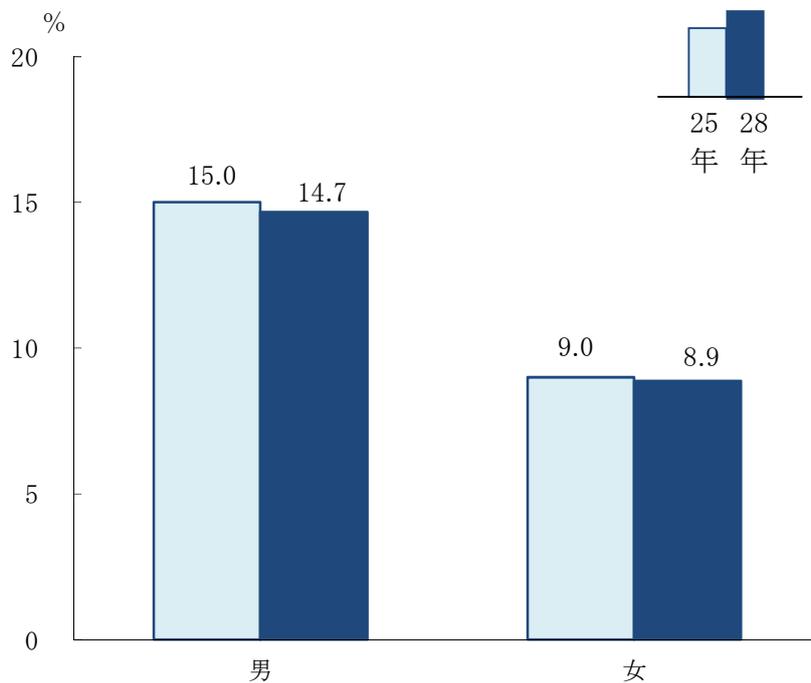
注：1) 入院者は含まない。  
2) 熊本県を除いたものである。

(2) 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合

20歳以上の者（入院者、熊本県を除く。）について、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合を性別にみると、男は14.7%、女は8.9%となっている（図29）。

（参考） 「健康日本21（第2次）」の目標 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少 目標値：男性13% 女性6.4%【平成34年度】

図29 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の年次比較（20歳以上）



注：1) 飲酒頻度と飲酒量の不詳を除く。  
2) 平成28年の数値は、熊本県を除いたものである。

「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者」とは、1日当たりの純アルコール摂取量が、男で40g以上、女20g以上の者とし、以下の方法で算出。

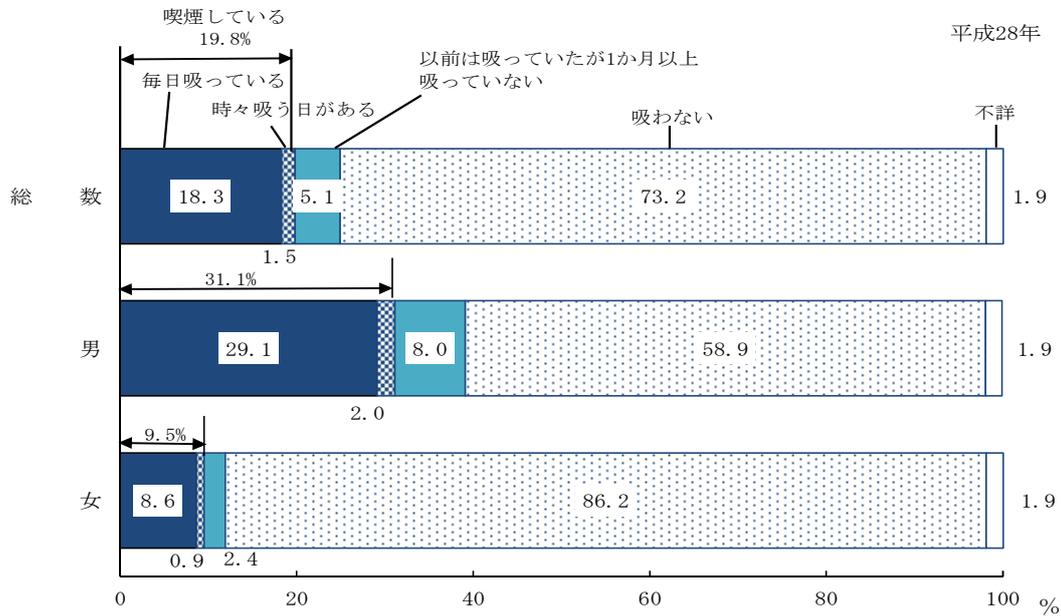
- ① 男：「毎日×2合以上」＋「週5～6日×2合以上」＋「週3～4日×3合以上」＋「週1～2日×5合以上」＋「月1～3日×5合以上」
- ② 女：「毎日×1合以上」＋「週5～6日×1合以上」＋「週3～4日×1合以上」＋「週1～2日×3合以上」＋「月1～3日×5合以上」

清酒1合（アルコール度数15度・180ml）は、次の量にほぼ相当する。  
ビール中瓶1本（同5度・500ml）、焼酎0.6合（同25度・約110ml）、ワイン1/4本（同14度・約180ml）、ウイスキーダブル1杯（同43度・60ml）、缶チューハイ1.5缶（同5度・約520ml）

## 8 喫煙の状況

20歳以上の者（入院者、熊本県を除く。）について、喫煙の状況を性別にみると、男女とも「吸わない」が最も多く、男で58.9%、女で86.2%となっている（図30）。

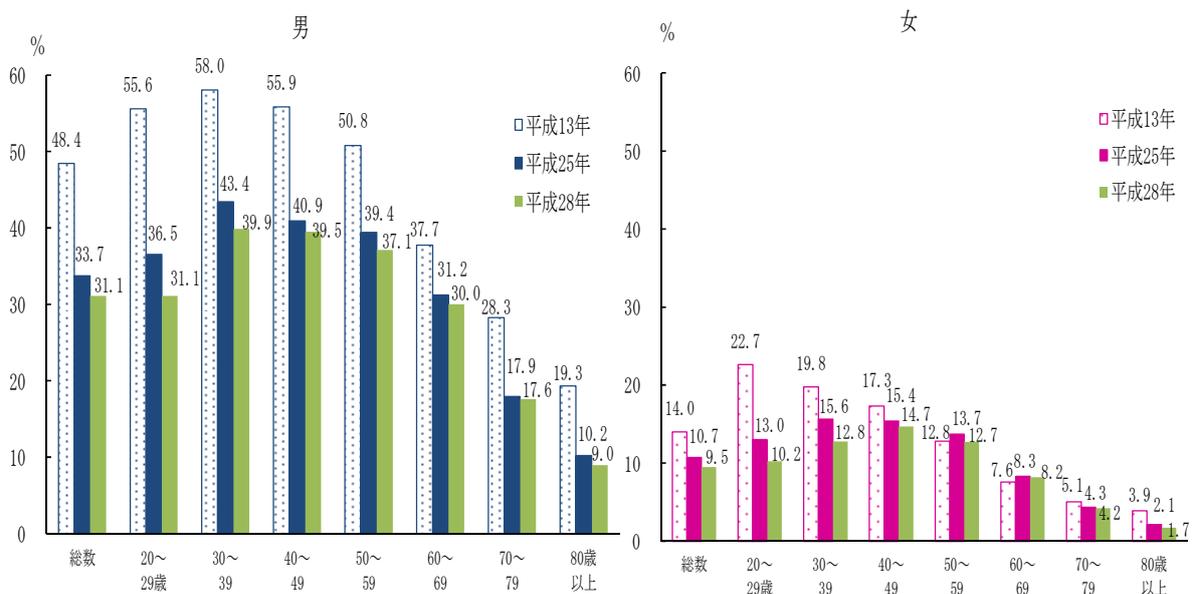
図30 性別にみた喫煙の状況の構成割合（20歳以上）



注：1）入院者は含まない。  
2）熊本県を除いたものである。

「喫煙している」（「毎日吸っている」と「時々吸う日がある」を合わせた者）を性・年齢階級別に平成13年と比較すると、ほとんどの年齢階級で低下しており、男女とも「20～29歳」が最も低下している（図31）。

図31 性・年齢階級別にみた喫煙している者の年次比較（20歳以上）



注：1）入院者は含まない。  
2）平成28年の数値は、熊本県を除いたものである。

## 9 健診（健康診断や健康診査）や人間ドックの受診状況

20歳以上の者（入院者、熊本県を除く。）について、過去1年間の健診（健康診断や健康診査）や人間ドックの受診状況を性別にみると、男72.0%、女63.1%で男が高くなっており、年齢階級別にみると、男女ともに「50～59歳」が最も高く、男で79.9%、女で71.0%となっている（表16）。

なお、40～74歳人口に占める健診受診率は71.0%である。

（参考） 「未来投資戦略2017（中短期工程表）」の目標 各年度における40～74歳人口に占める当該年度に健診（特定健診を含む）を受診した者の割合 目標値：80%以上【2020年まで】

表16 性・年齢階級別にみた健診や人間ドックを受けた者の割合（20歳以上）

性別	総数	平成28年							(再掲) 40～74歳
		20～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上	
総数	67.3	64.1	65.4	73.5	75.3	67.7	63.5	52.3	71.0
男	72.0	66.8	74.9	79.6	79.9	70.6	64.2	55.0	75.0
女	63.1	61.5	56.2	67.7	71.0	65.1	63.0	50.5	67.3

注：1）入院者は含まない。  
2）熊本県を除いたものである。

健診や人間ドックを受けなかった者について、受けなかった理由をみると、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が33.5%と最も高く、次いで「時間がとれなかったから」、「めんどうだから」となっている。

年齢階級別にみると、「20～29歳」では「めんどうだから」、30代から50代は「時間がとれなかったから」、60代以上は「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最も高くなっている。（表17）

表17 年齢階級別にみた健診や人間ドックを受けなかった理由（複数回答）の割合（20歳以上）

年齢階級	総数	平成28年											
		心配な時はいつでも医療機関を受診できるから	時間がとれなかったから	めんどうだから	費用がかかるから	毎年受ける必要性を感じないから	その時、医療機関に入通院していたから	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	結果が不安なため、受けたくないから	検査等に不安があるから	知らなかったから	場所が遠いから	その他
総数	100.0	33.5	22.8	20.2	14.9	9.7	9.6	8.3	5.4	3.7	3.5	2.3	11.7
20～29歳	100.0	16.6	24.4	25.0	22.9	9.1	1.2	12.9	2.0	3.3	10.9	1.9	14.7
30～39	100.0	16.9	35.5	23.5	28.5	7.6	2.5	7.6	4.0	4.3	5.9	2.4	13.4
40～49	100.0	18.8	41.4	26.1	19.8	7.8	3.8	6.7	7.6	5.0	2.9	2.7	10.5
50～59	100.0	26.8	33.7	24.6	16.7	9.1	7.1	7.3	8.4	4.8	2.2	2.6	10.7
60～69	100.0	41.2	17.9	20.7	11.0	12.6	12.0	8.9	7.7	4.3	1.2	1.9	10.6
70～79	100.0	52.7	7.0	12.6	5.9	11.8	17.5	9.2	4.9	2.7	1.6	2.1	9.9
80歳以上 (再掲)	100.0	54.1	2.6	10.4	2.7	8.2	20.4	5.9	1.9	1.1	2.2	2.6	13.3
65歳以上	100.0	50.8	7.7	13.8	6.1	11.0	17.2	8.2	4.5	2.6	1.7	2.2	11.2
75歳以上	100.0	54.2	3.6	10.6	3.4	9.3	19.9	6.8	2.8	1.6	2.1	2.5	12.2

注：1）入院者は含まない。  
2）熊本県を除いたものである。

## 10 がん検診の受診状況

40歳から69歳の者（子宮がん（子宮頸がん）検診は20歳から69歳。入院者、熊本県を除く。）について、過去1年間にがん検診を受診した者をみると、男女とも「肺がん検診」が最も高く、男で51.0%、女で41.7%となっている。

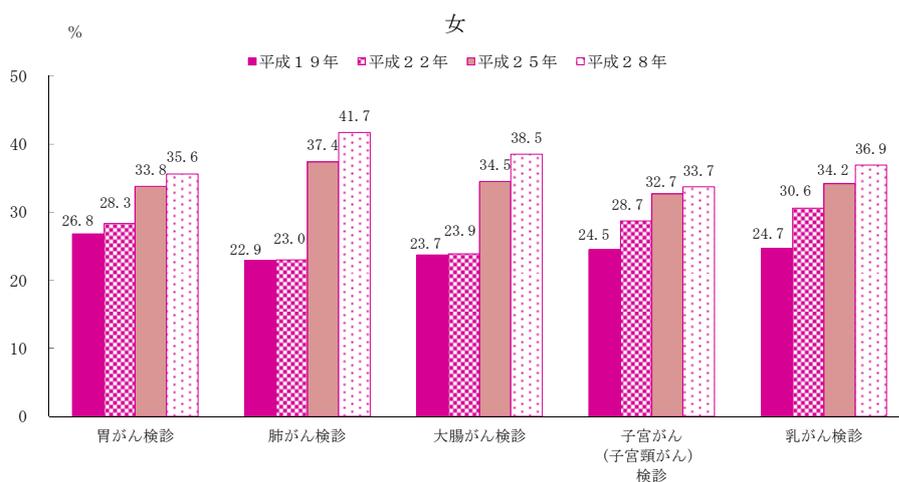
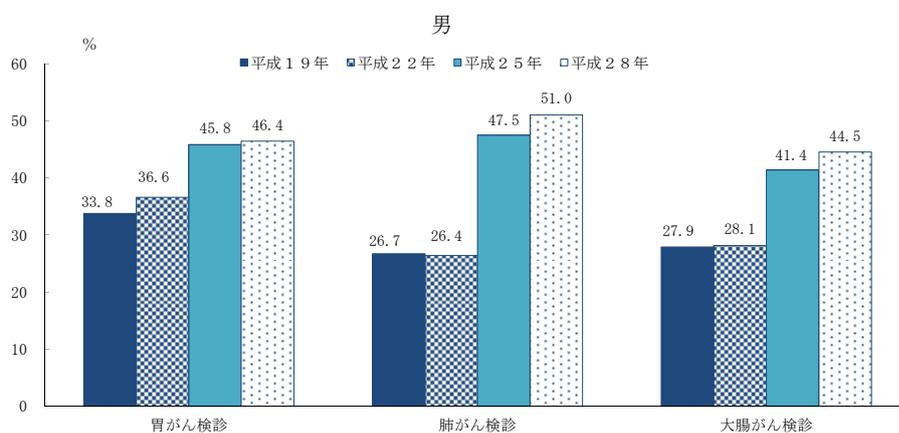
過去2年間に子宮がん（子宮頸がん）、乳がん検診を受診した者をみると、子宮がん（子宮頸がん）検診は42.4%、乳がん検診は44.9%となっている。

また、いずれの検診においても上昇傾向となっている。（図32）

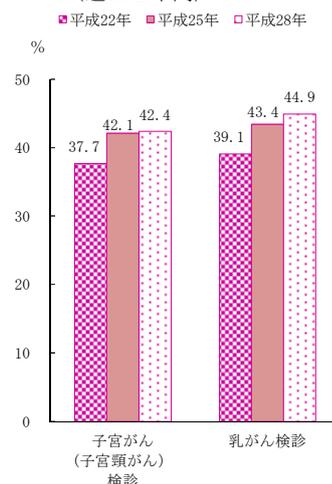
（参考） 「健康日本21（第2次）」の目標  
がん検診の受診率の向上 目標値：50%【平成28年度】

図32 性別にみたがん検診を受診した40歳から69歳  
（子宮がん（子宮頸がん）検診は20歳から69歳）の者の割合

（過去1年間）



（過去2年間）



注：1） 入院者は含まない。

2） 平成22年までは「子宮がん検診」として調査しており、平成25年以降は「子宮がん（子宮頸がん）検診」として調査している。

3） 平成22年調査までは、がん検診の受診率については、上限を設けず40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）を対象年齢として算出していたが、「がん対策推進基本計画」（平成24年6月8日閣議決定）において、がん検診の受診率の算定の対象年齢が40歳から69歳（子宮がん（子宮頸がん）は20歳から69歳）までになったことから、平成25年調査以降については、この対象年齢にあわせて算出するとともに、平成22年以前の調査についても、この対象年齢にあわせて算出し直している。

4） 平成28年の数値は、熊本県を除いたものである。